

子どもの声にとことん耳を傾け

今、この時を大切に・・・

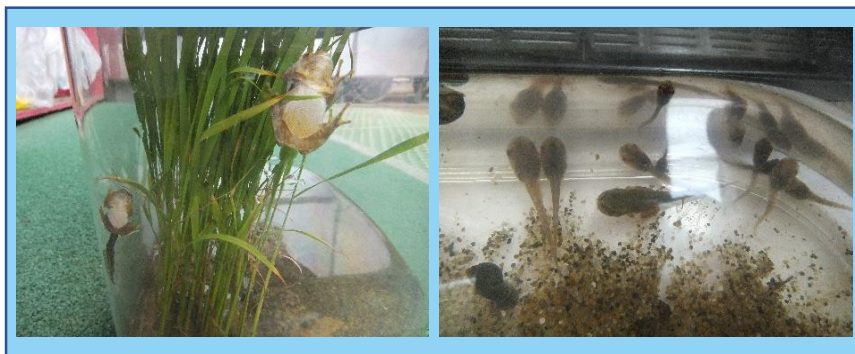
**大人になっても
福島の光と風や緑・木々の木漏れ日
の美しさを大切に覚えていてほしい
と願っています。
ずっとずっと これからも・・・**

**社会福祉法人 北信福祉会
ほくしん保育園**



自然体験の中から生命の大切さを学び、新たな気づきを繰り返し体験

～「試してみたい！」という意欲の芽生え～



大型プランターの田んぼから、ある日オタマジャクシを発見！
これには保育士も驚きでした。その日からオタマジャクシの飼育が始まりました。

「カエルって赤ちゃんの時からカエルなの？」の疑問が解決！



カブト虫の幼虫を地域の方からいただき、おそろおそろ見ていた子ども達。成虫まで育てる頃には、触れてみたり、積極的に関心をもったりできるようになってきました。



子ども達が自分達で考え、体験した遊びの中で培った達成感は大きく「次、またやってみたい！」という喜びの気持ち、子ども達の成長を感じました。

子どもの声を聴き、子ども達一人ひとりの可能性・生きる力に大切に関わっていく事で、保育者も気づきが増え保育に広がりが出てきている。

子ども達のチャレンジが、どんどん広がった田植え

～最後まであきらめず成し遂げる気持ちの芽生え～

稲刈り



「お米がスズメに食べられるよ！」と作ったかかしのおかげで、無事に稲刈りを迎える事が出来ました。発育の過程を自分達で見たり、かかし作りをしたりと、稲を自分達で守ろうという気持ちが出来ました。

脱穀



もみ殻から少しずつお米が見えてくる光景に大興奮！
「牛乳パックに穂を入れて引っばると、じょうずにお米がとれるよ！」

もみすり



すり鉢にもみを入れて、ボールでゆっくりすり上げました。

お米が出来るまでは
とっても時間がかかるんだね～

試食



お米作りを体験したことで、
こんなことにも興味がでてきました…



味噌作りへの発想



毎日口にするお味噌汁。お味噌って何からつくられているのかなあ。そんな子ども達の疑問から、「そうだ！給食の先生に教えてもらおう！」と味噌づくりに挑戦！

ゆでた大豆の煮汁を味見して「おいしくなーい」と言っていた子ども達でしたが、大豆をつぶす作業は、一生懸命でした。みんなで作った味噌は樽に入れて、しばらくお休み中。食べられるようになるまで、半年間かかる事を知り、より一層食に対する関心への深まりがでてきました。

自然とたくさん触れ合う中で、年齢によって「どうして？」の発見が増えてきました。

おたまじゃくしが生まれた経験で、田んぼが育む生態系を知りながら、自然の中で学ぶ魅力や季節の変化を全身で感じ、豊かな感性が育ってきています。

米作りでは、地域の方との交流も図りながら、田植えから収穫までの過程を教えてもらい、お米を作ってくれた人や、食べ物への感謝の気持ちも芽生えました。

水田、野菜栽培、花壇にいる虫に興味を持つなど、様々なことに興味が広がり、挑戦する意欲が育まれてきました。

図鑑を手に取り、自ら調べたことを保育士や友達に言葉で伝える中で、「やってみたい」などの探求心が培われてきました。

その芽が育つよう、「今この時を大切に」をモットーとし今後も子ども達の関心が興味に変わる瞬間を見逃すことのないよう見守っていきたいと思います。

好奇心・探求心の芽生え



散歩に出かけ、自分の影を発見し手を当てて喜ぶ子ども達...遊びの発展が見られていました。



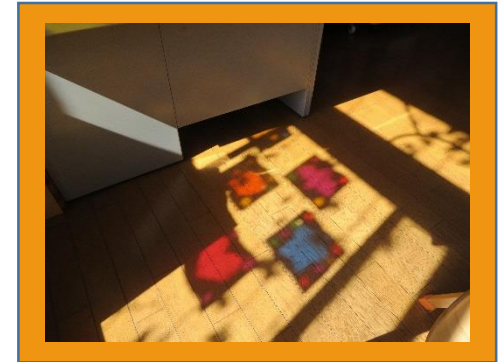
カラーセロファンを組み合わせを楽しみ、影遊びへと遊びが広がっていく様子



自分の影に気付き楽しむ姿



床に写っている影の中に、色のついている影に気付き、遊び始める子ども達。窓のカラーセロファンの色は、天候によって変化しきれいに見えたり、見えなかったりと様々な変化に気付いていました。



今回の取り組みは

“子ども達の気づき、不思議、なぜ？どうして？”

から始まりました。

保育の原点の心髄に触れ、この活動を通して子ども達からたくさんの学びを得ることが出来ました。

挑戦する気持ちを大切に、段階を踏んで一步一步積み重ね、根気よく物事に取り組む意欲が生まれました。来年度は、小さいながらも本格的な田んぼを作り、持続可能な環境設定を整えたい。また、主体的に挑戦していく意欲をこれからも育てていきたい。

